



2016年10月4日

各 位

会 社 名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 穂川 稔
(コード番号 4569 東証第1部)
問 合 せ 先 社長室 コーポレートコミュニケーション部長 宮木 修次
電 話 番 号 03-3525-4707

タイで過活動膀胱治療剤「ウリトス[®]錠」を新発売

キョーリン製薬ホールディングス株式会社（本社：東京都、代表取締役社長：穂川 稔、以下、「キョーリン製薬ホールディングス」）およびエーザイ株式会社（本社：東京都、代表執行役CEO：内藤晴夫、以下「エーザイ」）は、このたび、エーザイのタイ販売子会社Eisai (Thailand) Marketing Co., Ltd.が、過活動膀胱治療剤「ウリトス[®]錠」（一般名：イミダフェナシン）を現地にて新発売したことを発表しました。本剤は、キョーリン製薬ホールディングスの子会社である杏林製薬株式会社（本社：東京都、代表取締役社長：宮下三朝、以下「杏林製薬」）が創製したもので、2009年に杏林製薬がエーザイに中国・アセアン諸国・インド・スリランカにおける独占開発権および販売権を供与しています。なお、このたびの新発売は、エーザイが権利を保有する地域での初の上市となります。

過活動膀胱（OAB；Overactive Bladder）は、尿意切迫感を必須症状とし、通常は、頻尿と夜間頻尿を伴い、場合によっては必須症状とされない切迫性尿失禁も伴う症状症候群です。トイレの不安のために外出を控えたり、夜間の睡眠が十分取れなかったり、日々の行動が制限されるなど、患者様のQOLに対して、様々な悪影響を及ぼすことが問題となっています。

一般的に OAB は加齢に伴い患者数が増加すると言われていますが、脳卒中、パーキンソン病などの脳や脊髄の病気や前立腺肥大症が原因となって起こることも報告されています。本邦の過活動膀胱診療ガイドラインでは、日本における OAB 症状の有症状率は 5~20%とされています。アジアでは、有病者実数は不明であるものの、18 歳以上の男性の 29.9%、女性の 34.7%が何らかの OAB の症状を経験しているとの報告もあり、その多くが疾患認知度の低さ等から、適切な治療を受けていないとされています¹。

本剤は、OAB 治療に汎用されている抗コリン剤で、ムスカリン受容体サブタイプの M3 および M1 に対して選択的な拮抗作用を示し、OAB における尿意切迫感、頻尿および切迫性尿失禁を改善します。本剤に見られる主な副作用は口渇（口内乾燥）や便秘です。

本剤の新発売を通じ、杏林製薬およびエーザイは、タイにおけるOABの患者様のQOLの改善とベネフィットの向上に貢献してまいります。

なお、本件の2017年3月期の業績予想に与える影響は軽微です。

¹ J Med Assoc Thai 2007; 90 (11): 2316-20

ウリトス[®]錠（一般名：イミダフェナシン）について

ムスカリン受容体サブタイプのM3及びM1に対して選択的な拮抗作用を示す新規の抗コリン剤であり、1日2回の投与で、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善します。また、本剤は膀胱選択性が高く口渇（口内乾燥）や便秘が少ない薬剤であり、優れた有効性と安全性が確認され、過活動膀胱の患者様のQOL向上に貢献できるものと期待しております。

以 上